

REIMEI

黎明

～一般社団法人 日本PVプランナー協会会報誌～ Vol.11 夏号



表紙写真提供
重機商工(株)
(株)ポデークス

CONTENTS

再生可能エネルギーを主力電源に

一般社団法人日本PVプランナー協会
理事長 林 浩司

- ・特集／発電事業者様向け無料セミナーを開始しました！
- ・PV施工団体連絡会を立ち上げます！
- ・地区会レポート／東北、関東地区
- ・会員企業訪問／西備工業(株)/原建設建材(株)
福島パルス(株)/株ジャスパー
- ・エネルギーマネジメントアドバイザー資格
認定者へのフォローアップ研修

先日、新しいエネルギー基本計画が発表されました。発電電力量に占める各電源構成の比率は2015年に定められた目標が据え置かれました。

再生可能エネルギーで作った電力の比率は22～24%の目標を据え置きました。また、今回の計画では原発を「重要なベースロード（基幹）電源」と位置付けながらも「再生可能エネルギーの主力電源化を目指す」と明記され、より本格的に導入して電源として育てる意味合いを鮮明



にしています。

しかし、主力電源としていくためには、多くの課題が山積しています。再生可能エネルギーは、天候に左右されます。発電されていないときに、安定的に電力供給を補助する電源を備えておくことが必須ですが、コストがかかりすぎても現実的ではありません。電力は、安定的でかつ安価である必要があります。

発電した電力をいろいろな形で貯めておく方法が開発されてきておりますが、高性能で低価格のエネルギー貯蔵の技術革新や、デジタル技術を活用した新しい電力受給の概念などに期待したいところです。

一般社団法人 日本PVプランナー協会 理念

私たちは、PV プランナー・PV システムインテグレーターの育成をおこない、太陽光発電の健全な市場発展に努めます。

その為には

- 1、私たちは「地球環境問題」の解決に取り組みます。
- 1、「販売」は、コンプライアンスを遵守します。
- 1、「商材説明」は、お客様に正しい知識と情報を提供します。
- 1、「施工」は、安全を第一に考え、お客様の家屋を守りながら、適正な発電が行えるよう努力します。
- 1、「アフターサービス」は、お客様のニーズに応え、素早い対応を心がけます。

以上を行い、私たち・お客様・地球が共に繁栄する「豊かな未来創り」に貢献します。

『2018年度 安全スローガン』募集開始いたしました！

今回から個人応募と社内コンペ応募の2種類のお申し込みができるようになりました！

新設した社内コンペ応募は、会員企業様の社内において安全スローガンの募集を行うことで安全に対する社内意識を高めていただこうと思います。社内募集した安全スローガンから企業ごとの優秀作を選出していただき、そこから当協会の役員会～理事会により最優秀作品を選出したいと思います。

日々の安全への意識を高めることがとても重要だと思いますので是非ともたくさんの会員企業様のご応募をお待ちしております。

《7月4日応募受付開始～10月1日応募締切》



事務局だより

今年の5月に入社した新人の原です。どうぞよろしくお願いたします。今回はエネルギー効率にまつわるお話を一つ…。

私が小さい時からわが家にはいつも猫がいた。学校の帰り道に捨て猫を見つけて拾ってきたこともあれば、近所で生まれた子猫をもらったこともあった。犬も好きだったが縁はなく、とにかく猫との縁だけは続いた。猫と寝食をともにし、猫の好きなことや嫌いなこと、どうすれば仲良くなれるのか、猫を飼う上での知識や彼らとのコミュニケーション能力は自然と身についた。飼った猫はすべて雑種だったが、茶トラ、サバトビ白、キジトラ、サバ白、サバトラ、シママキなど、雌雄含めていろいろな柄の猫を飼った。

3年前に先代のサバトラが死んだ。子猫の時に妻が拾い、18年をともに過ごした猫だった。悲しみ

と喪失感に耐えられず、半年後に保護猫の譲渡会を訪ねた。そして、わが家初の「黒猫」を飼うことになったのである。

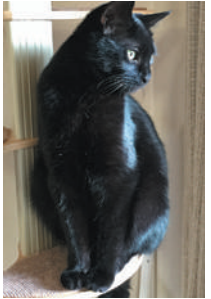
さて、猫は一般的に日向が好きである。特に秋から春にかけての季節、陽当たりのよい場所を見つけると、長い時間日向ぼっこをするのである。先代のサバトラは、2～3時間は日向ぼっここの昼寝をしていたものだった。

ところが、である。当代の黒猫はというと、日向ぼっこが少々苦手なのだ。陽当たりがよい場所を見つけはするのだが、10分もするとそそくさと退散してしまうのである。おかしい。猫なのに、なぜ！？

少し考えると、答えが見つかった。

「ああ、『黒い』からだね！」

原



お問い合わせは…



一般社団法人 日本PVプランナー協会

〒222-0033
神奈川県横浜市港北区新横浜3-7-18
第2上野ビル715号室
TEL:045-594-8015/FAX:045-594-8016
Web <http://pv-planner.jp>
Mail otoiawase@pv-planner.jp

制作・編集：(株)電設出版

SHIN EI

太陽光発電メンテナンス測定器

ストリングの不良診断



新製品

PV レジスタンス チェッカ

PVR-1000

測定
1秒!

定価 ¥138,000 (税別)



内部抵抗値でストリング診断

正常			不良初期			発電異常		
No.	抵抗値	電圧	No.	抵抗値	電圧	No.	抵抗値	電圧
A002	10Ω	266.7V	A003	10Ω	266.4V	A004	10Ω	266.5V
A003	10Ω	266.4V	A004	10Ω	266.5V	B001	567Ω	265.4V
A004	10Ω	266.5V				B002	>1000Ω	265.6V

※判定値は変更できます。開放電圧は、カラー判定しません。

NO-GO
判定

2000件
保存

USB
管理

650g

モジュールの性能診断



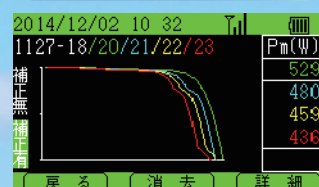
I-Vカーブトレサ

IVH-2000Z

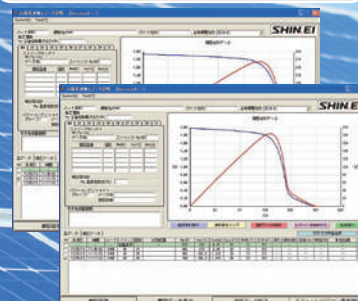
測定
1秒!

定価 ¥450,000 (税別)

I-V 比較測定



SDM-3600 管理ソフト(付属)



I-V
カーブ

解析
ソフト

日射計
付属品

1.4kg

日射・温度計(付属)

新栄電子計測器株式会社

〒252-0816 神奈川県藤沢市遠藤2636
TEL 0466-88-3030 FAX 0466-87-0627

SHIN EI

<http://www.shin-ei.ne.jp>

PV施工団体連絡会を 立ち上げます!

太陽光発電業界には電気工事組合連合会のような太陽光発電施工店による連携された業界組織が存在しておりません。

なぜなら他の業界(電気・水道・ガス・建築・リフォーム等)からの参入が主体であることが一つの要因です。また太陽光発電施工店の組織としては全国に社団法人や協会、任意団体などありますが、それぞれが40社~140社くらいの団体であり、その団体同士が連携しているわけではありません。

一方では、太陽光発電設備の健全な維持管理や運

用などに対する知識・見識・知見などが、業界内から私ども太陽光発電施工団体にも求められるようになっています。

そこで全国にある太陽光発電施工団体の連絡会を立ち上げ、お互いの知見や技術、情報の共有化や、施工団体の現場ならではの意見を必要とする他の団体や自治体、委員会などに集約し、情報の提供を行い、業界の市場発展に努めたいと考え、まずは以下の団体によりPV施工団体連絡会を立ち上げました。

1. (一社) 日本PVプランナー協会 林理事長: 神奈川県横浜市 (連絡会事務局)
2. 新エネルギー革命会 恒石会長: 東京都千代田区
3. (一社) 新エネルギーO&M協議会 池田理事長: 東京都千代田区
4. (一社) あきた太陽光・小型風力発電協会 中村理事長: 秋田県秋田市

PV施工団体連絡会~現時点での活動

1. 5月22日: PV施工団体連絡会発足を経済産業省 新エネルギー課 山崎課長に報告訪問しました。
2. 6月4日: 産業技術総合研究所 菱川様より太陽電池性能屋外高精度測定秘術に関するヒアリングを連絡会メンバーにて行いました。
3. 7月2日: 産業技術総合研究所 大関様より太陽光発電設備におけるヒヤリハット事例収集依頼に対し、連絡会メンバーにて収集開始します。

事務局: (一社) 日本PVプランナー協会内に設置

太陽光発電所を健全に維持し、 継続していただくための普及活動 として発電事業者様への 無料セミナーを開始いたしました！

2018年5月29日（火）東京・新宿において、安全に安定して長期に太陽光発電所を稼働していただくという開催主旨にご賛同していただいたJET（一般財団法人電気安全環境研究所）様のご後援を受け、（一社）日本PVプランナー協会が主催の『第1回発電事業投資家向け運用セミナー』を開催いたしました。

参加者の皆様には『発電事業オーナー倶楽部』にご登録いただきましたので、今後は法令、省令、安全技術や専門情報を継続的に配信し、少しでも太陽光発電所の健全な維持、管理、運用がかなうよう努めてまいります。

今回のセミナー後には設計・施工や保守点検に関する相談会も開催し、多数のご相談があり、参加者の意識の高さがうかがえました。

第2回セミナーを9月までに開催予定であります。

「発電所の不具合事例と メンテナンスの重要性」

JET（一般財団法人電気安全環境研究所）
大林只志氏

JET（一般財団法人電気安全環境研究所）は、各種電気製品の認定業務を行っている団体です。太陽光発電に関しましては、モジュールやパワーコンディショナの認定業務を主に行っています。本日は太陽光発電所の事故例をお話させていただきます。

自然災害による事故事例としては、斜面にパイプを組んでモジュールを設置し、雨で地盤が緩みモジュールが崩れ落ちた、という事例があります。これは、基礎工事や土木工事の設計ミス・施工ミスといえます。

もともとモジュールにクラックが入っていた例もあります。輸送の段階、梱包の段階など、いろいろなケースが考えられます。

また、金具が所定の場所についてない、モジュール間に不要な隙間があいている、配線工事が不適切、ネジの締め付け不良、プラスマイナスを逆に取付けてしまった、等、施工不良の例も多くあります。

雑草の成長で影が発生し発電量が落ちた、カラス



が石を落としモジュールが割れた、などもよくある事例です。

モジュールはメンテナンスフリーといわれていますが、メンテナンスをしないと劣化していきます。劣化したら事故を起こす前に交換しないといけません。

ここで何が重要かというと、設計と設計のチェックです。今回の事故例からわかることは、定期的に適切なガイドラインに基づいた点検をし、是正しながら20年30年運転していくことが太陽光発電の健全な運用であるということです。メンテナンスの重要性を強調しておきたいと思います。

「遠隔監視装置による 保守管理の必要性」

エナジー・ソリューションズ株式会社
森上寿生氏

まず初めに申し上げておきたいことは「太陽光発電所はフリーメンテナンスではない」ということです。発電開始10年での太陽光パネルの不具合は13%、パワーコンディショナの不具合は17%といわれています。

トラブル・故障の原因は「自然災害」「設計・施工ミス」「機器故障」「盗難」の4つです。

「自然災害」としましては、落雷でパワーコンディショナが止まってしまった、火山の噴煙で想定発電量と実際の発電量が違ってしまった、台風でモジュールが一枚飛んでしまった、などが挙げられます。

「設計・施工ミス」、「機器故障」としましては、一

部ストリングを逆に挿していた、漏電によりパワーコンディショナが止まってしまう、接続箱のヒューズが落ちていた、などです。

「盗難」の場合は突然通信確認ができなくなり、現地に行くと遠隔監視装置がなくなっている、という例で、意外と多くあります。

これらは遠隔監視装置により常時監視していることにより発見できた例です。

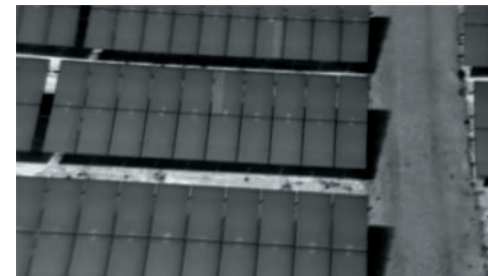
では、ドローン赤外線検査では何ができるのでしょうか。ドローンを上空に飛ばし、発見できるのは以下の4つです。

①影や汚れによるセルのホットスポット（高温）、②カラスの投石などによるガラス割れなどによるモジュール全体の高温化、③クラスタの異常、④短絡していてストリング全体の高温化。

地上からでは分かりにくい異常高温化を短時間で発見することができます。



ドローン赤外線から 見た不具合事例



クラスタ異常



モジュール ガラス割れ

写真提供：エナジー・ソリューションズ(株)

「リパワリングとセカンダリー ～これから始まる再エネ投資」

株式会社横浜環境デザイン
池田真樹氏

発電所において、なんらかの異常により、収益が低下している例が散見されます。モジュールの異常はサーモグラフィックカメラ、赤外線カメラにより発見でき、クラックなどはI-V特性曲線検査、EL検査で知ることができます。

出力を改善するという意味で「リパワリング」という言葉が使われています。

改善には費用がかかりますが、発電量のアップが

あれば、何年で回収できる、という見込みが立ちます。積極的にリパワリングを行ってみたいかがでしょう。

さて、ここからは投資のお話です。

新規の発電所建設は減っています。FIT価格が下がっています。屋根は発電場所と消費場所が同一、工事が比較的簡単などの理由で、投資リスクが少ないといえると思います。

さらに、太陽光発電第3者所有モデルにより、建物オーナーや投資家のリスクを軽減することができます。出資者が太陽光発電事業者に出資し、太陽光発電事業者が屋根の上や屋上に太陽光発電を設置し、電気代という形で回収して、利回りとして投資家の皆さんに戻す、というモデルです。

地区会レポート

秋田編（2018年6月1日）

「営農型太陽光発電 ～水田ソーラーシェアリング～ 農業と自然エネルギーの共生」

— 東北地区会・見学会 —

今回は秋田県南秋田郡井川町にて、実証試験中の水田ソーラーシェアリング見学会を開催し、現地の施工・管理を行っている㈱アイセスの手塚氏に案内していただきました。

同社は主に基盤実装、配電盤制御盤、太陽光発電モジュール等の設計・開発・製造・販売を行っており、特に日照条件の悪い地域や降雪地域向けの製品などを幅広く展開し、2015年からはソーラーシェアリングに本格参入しています。

現地では、水田特有の粘土層土壌や遮光率の問題など、ソーラーシェアリングとしては難易度の高い条件に、専用資材による支柱や架台、太陽光モジュールの設置状況などを目の当たりにすることができ、参加者は興味深く見学していました。

見学後は手塚氏によるセミナーが行われ、ソーラーシェアリングの基礎情報、作付け事例などの紹介、次いで秋田県内の就農人口の減少や耕作放棄地の拡大問題が報告され、対策としてソーラーシェアリングを行うことにより、営農者の収入アップと農作業の効率化や地域農業の活性化、ひいては地域経済の活性化にも繋がる重要な事業として捉えているということでした。

実際の施工にあたっては、事前調査により地盤の柔らかさが確認されたことで杭長を設計したことや、浮沈防止ベースを設けたスクリー杭、専用開発したスリムタイプのパネルを用いたことが紹介されました。



(株)アイセス 手塚氏

また、ソーラーシェアリングを行うにあたっての膨大な申請書類や農業委員会との関わりなど、通常の太陽光発電所の申請に加え、非常に多くの手続きが必要であったことが説明されました。

現在約1年が経過し、稲作の初年度の実績は10aあたり、パネルを設置しない場所が約540kg、パネルを設置した場所が約480kg、予定収穫量より10%程度少なかったが、発電量は予定発電量より7%増という、初年度としては上々の結果とのことでした。

農地転用許可制度の改正で、条件を満たせば許可更新が3年から10年へ延長されたことにより、今後ますます盛んになると思われるソーラーシェアリング。秋田という土地柄、比較的日照も少なく、遮光率30%の水田稲作という条件下でこのような成果が出ていることを考えると、日照の多い土地や遮光率が40～50%の作物のソーラーシェアリングには、まだまだ秘められた可能性があるといってもよいのではないのでしょうか。



スクリー杭と浮沈防止ベースによる支柱

※これらの映像+資料は協会HPより視聴+ダウンロードが可能です。社内研修や社内事業検討にお役立てください。
(ご覧いただくにはパスワードが必要です)

地区会レポート

福島編（2018年6月15日）

「飯舘村復興プロジェクト ～原発事故からの復興を 太陽光発電で！～」

— 関東地区会

・新エネルギー革命会 共催・見学会 —

福島県相馬郡飯舘村にて、飯舘電力の牧草ソーラーシェアリングの見学会を新エネルギー革命会との共催で開催しました。

飯舘電力(株)は、畜産家であり米農家である小林稔社長の「飯舘村復興」に向けての強い思いから、会津電力(株)の佐藤彌右衛門社長らの協力を受け、2014年に設立された、村民46名と全国の有志の出資からなる「市民電力」です。

飯舘電力の専務取締役近藤氏に現地を案内していただき、あいにくの小雨降るなかでの見学会となりましたが、牧草地でのソーラーシェアリングは初めて見るという方も多く、参加者は興味深く見学していました。また、小林社長の自宅牛舎を訪ね、現在飼育中の牛なども見学。あと12か月で出荷される牛もいるとのことでした。飯舘村内にはフレコンバック(フレキシブルコンテナバック)という汚染土壌や瓦礫の入った袋が詰まった「仮々置き場」と呼ばれる沢山の小山がいたる所に作られ、未だ震災の爪あとがそこ此処に残る状況でした。

見学後は飯舘村交流センターにて近藤氏による講演が行われ、飯舘電力設立にまつわる話や小林社長の思いなどが紹介されました。小林社長が酒米を作っていたことがきっかけで、喜多方の大和川酒造の経営者でもあり会津電力(株)社長の佐藤氏が副社長に加わるなど、さまざまな縁が重なって設立された経緯や、当初は銀行からの融資や行政



フレコンバックが積まれた小山



牧草ソーラーシェアリング

からの支援協力の取付けに苦労したことなど、いくつもの大変な思いを経て設立されたという話には、参加者も神妙な面持ちで聞き入っていました。また、当初1MWのメガソーラーを計画していたが、東北電力の再エネ買取枠の変更により、低圧分散への計画変更を余儀なくされ、6/15現在、35か所（うち13が営農型）となり、今年末までに合計59か所、3MWを計画しているとのことでした。

次いで現時点での成果などが語られ、地元の信用金庫から17年間の金利固定での借入れ優遇措置を受けることができたこと、過積載率200%を実現したことや新電力への電力販売、自社によるO&Mなど、さまざまな取り組みによる成果として5期より株主への配当の目処が立ったことが報告されました。

また、飯舘電力が将来目指すものとして、営農部門の立ち上げ、飼料作物と資源作物のバイオマス実証試験、菜の花からの油採取、電力小売事業など、さまざまな展開を模索しているということでした。

最後に「地域の復興として再エネ事業に取り組む飯舘電力だが、まだまだ内外の一部から理解を得られず風当たりの厳しい場面もある。この復興事業は私たちに課せられた使命だと感じており、今後も勇気を持って取組んで行きたい」と近藤氏は締めくくりました。



※これらの映像+資料は協会HPより視聴+ダウンロードが可能です。社内研修や社内事業検討にお役立てください。
(ご覧いただくにはパスワードが必要です)

お客様に喜ばれることを 第一に考える

西備工業(株) (中国・四国エリア会員)

弊社は岡山県井原市に本社を置き半導体関連の事業と太陽光事業を行っております。【お客様にとって、「西備工業が優先順位で1位」といっていただける】ことを第一に考えています。

太陽光事業は、2008年より住宅用からスタートしました。まず、取組んだのは、パネルを屋根に設置する時にお客様に安心をしていただけることでした。グループ内に瓦工事会社を持つ強みを活かし、屋根工事の専門家が太陽光パネルを取付けることでお客様からの信頼を得ることができました。

現在は産業用太陽光を中心に事業を展開しております。1.2MG、700K、500Kの高圧案件や複数の低圧案件も地元のお客様を中心に大きな信頼を得ることができたと思っております。

弊社の特徴は、土地探し、現地調査、各種申請から始まり、自社ブランド「セイビパーフェクトエナジー」のパネルを中心に架台設計、システム設計を行い、グループ内にて施工工事を行うことでお客様と密接な関係を作ることができました。20

年間というFIT制度の期間を安心していただけることが太陽光発電事業を行っていく上で一番大切なことと考えております。

＜会社方針＞経営姿勢：①お客様にとって西備工業が優先順位で1位になる。②お客様にとって良いと思うことは「すぐやる」。

＜お客様に関する方針＞基本：①現在のお客さまに喜ばれることを第一に考える。②お客様がわが社を満足していただく。

＜販売に関する方針＞基本：①現在のお客様に喜ばれることを第一に考え、信頼関係を構築する。②お願いより、お礼に心をくだく。

弊社は、この時代に生き残るために全社員が会社方針を心に「共通の認識」、「共通の言語」、「共通の道具」を持ってお客様に満足していただけるような会社を目指しております。

・会社概要・
社名：西備工業(株)
住所：岡山県井原市高屋町267-1
代表者：代表取締役社長 北村博則
創業：1946年9月25日
主な事業：半導体ウエハー検査、ダイシング、太陽光発電販売施工および住宅関連



創業20周年！地域社会の発展と 未来に貢献したい

原建設建材(株) (九州エリア会員)

弊社は1998年5月、「有限会社原建設建材」として設立した、土木を中心とした会社です。

2013年からは自社オリジナル製品「HKフェンス」を開発し、現在はフェンス販売・工事を中心に営んでおります。HKフェンスの開発にあたり、コストはもちろんのことですが、第一としたのは「真のお客様本位商品」の制作でした。フェンスは発電所をお守りするうえで必須アイテムです。コスト・品質・施工性・安全性のバランスが取れている商品でなければ再生可能エネルギーの発展の妨げ

になりかねません。初代「HKフェンス」から7回の改良を重ね、現在の商品になりました。長期にわたり、お客様に寄り添える商品であり、私どもでなければならぬという思いを商品にしました。

地域社会の健全な発展と、次世代を担う子供達へ確かなものを残せる企業でありたいと思います。「久留米発、柵を工事する！」をテーマに福岡県久留米市から、今日も元気に営業中です。

・会社概要・
社名：原建設建材(株)
住所：福岡県久留米市田主丸町竹野1819
代表者：代表取締役社長 原 泰則
創業：1998年5月
主な事業：工事部 公共工事・エクステリア・下水道・解体・除草業務 商品販売部 ・HKメッシュフェンス・HKエクステリアフェンス販売・リアル人工芝「Easy Green」販売・次世代型空調機「エコウィンハイブリッド」代理店



夢だなんていわせたくない!!

福島パルス(株) (東北エリア会員)

「福島に生まれて、福島で育って、福島で働く。福島で結婚して、福島で子供を産んで、福島で子供を育てる。福島で孫を見て、福島でひ孫を見て、福島で最後を過す。それが私の夢なのです。」

原発事故の年、本県で開催された全国高等学校総合文化祭で、県内の高校生が演じた創作劇の中の言葉です。ごく当たり前の話が「夢」として語らなければならないなんて、なんて辛く悲しい思いをさせてしまったんでしょう。

二度とこんなことをいわせないようにするために、今、自分ができることを、足元の小さなことからでもやっていかなければなりません。福島県の原発被害は、日を追うごとに深刻になってきています。街中から子供たちの姿が消えてしまい、夏のプールにも子供たちの楽しそうに騒ぎ回る姿はありませんでした。子供たちが外へ出られないなど、SF映画の中のことと思っておりましたが、現実のこととなってしまいました。多くの人が故郷を追われ、帰れないままです。死の灰が降った範囲は関東地方までおよびます。脱原発のために、何かを

しなければならない私たちに何ができるのか。脱原発、反原発の意思表示の一手段として、一個人でも、一家族でも発電ができる太陽光発電に取組みたいと思います。従来は、発電といえば、巨大企業が、巨大資本により、巨大設備で発電しなければ不可能でした。しかし現在の技術は、一家庭の小資本でも発電を可能としました。私たちにも発電ができます。

太陽光、風力、地熱、水力など再生可能エネルギー利用により国民総発電所になれば、原発は不要です。

子供たち、孫たち、未来の人たちに、青い美しい地球を残すため、いつか原発のない時代が来ることを信じ、今できること、太陽光発電の普及から行なっていきたいと思います。

・会社概要・
社名：福島パルス(株)
住所：福島県郡山市喜久田町字菖蒲池1-1
代表者：代表取締役 福島正則
創業：1967年9月
主な事業：自動化システム制御盤・省力化、機械化用制御盤・プラント用制御盤・動力用制御盤・弱電用チェッカー・コンクリートポンプ車用無線操縦システム・制御盤の保守点検・建築・土木用基礎杭デルタウイングパイルの製造販売施工・太陽光発電システム販売施工



ソーラーシェアリングで 農業を支える

(株)ジャスパー (関東エリア会員)

社名ジャスパーの意味は太陽・情熱・前向き。

ジャスパーは自分自身だと本気で思えるそんな志を持った社員とともにソーラーシェアリングに本気で取り組んでいます。シェアリング施工実績は早くも8MkW(約80反、24,000坪)を超え、遮光率約30%の太陽の下、葡萄やブルーベリー、柿などが順調に生育しています。

そのような中、実際に農家の方の生の声を聞き、私たちは立ち上がりました。今、日本の農業者平均年齢が65歳を超え、10、20年後には農業を行う人がいなくなってしまうと感じました。その背景には収入が安定せず、少ない。そして重労働。誰が率先してやるのでしょうか？

そんな現状を打破できるのは…私たち太陽光発電事業者が農業にも真剣に取り組む、特に六次産業化に繋げる。農業は農家さんとタッグを組んだり、知恵を借りながら自分たちで営農したいと考えています。ぜひ、皆さんの力をお貸しください。

また、ソーラーシェアリングでは、ほとんどのお



客様は設備代を借入れ、持ち出しなしで設置し、返済は売電収入で賄えてしまいます。また、設置した農地で農業をそのまま続けますので、農地を減らすこともありません。ソーラーシェアリングを行い、売電収入から得る安定した収入を基盤とすることで、これからの農業を支えていけると私は考えています。

・会社概要・
社名：(株)ジャスパー
住所：神奈川県相模原市中央区相模原6-22-9 朝日相模原ビル4F
代表者：代表取締役 櫻井秀雄
創業：2009年12月
主な事業：太陽光発電設備、ソーラーシェアリングの販売、施工、メンテナンス、野菜、果樹の栽培、販売

エネルギーマネジメントアドバイザー資格認定者への フォローアップ研修

エネマネ関連の最新情報をフォローアップ研修でアップデート

(一社)日本PVプランナー協会は2015年より、一般の方でもエネルギーマネジメントをアドバイスでき、わかりやすい説明のできる人材の育成を目的として、エネルギーマネジメントアドバイザー認定を行ってまいりましたが、まもなく認定者の総数が2,000名を超えようとしています。認定者は社会人のみならず、アカデミック認証機関である「日本電子専門学校」「東北電子専門学校」の在学中にエネマネを授業で学び、試験に合格した学生がおり、その中には、卒業後、資格を現在の仕事に活用している方もいらっしゃいます。

エネマネの知識や情報は、日々新しくなっており、これらは認定を取得した時点で留まりません。常に知識や情報をアップデートしていく必要があります。そのような中、エネルギーマネジメントアドバイザーを対象としたフォローアップ研修を年に数回開催しています。

ここではその中から2018年4月18日に東京・神田で開催した「2018年度エネルギーマネジメント戦略のポイントはここだ！」のレポートをお届けします。

- ・2017年3月4日(横浜)
「ガス自由化直前セミナー」
- ・2017年6月9日(横浜)
「中小企業強化税制セミナー」
- ・2017年7月24日(大阪)
「ネクストビジネスセミナー ZEH&住宅ソリューション編」
- ・2017年9月15日(東京)
「Energy Solution LABO 東京 見学会&セミナー」
- ・2018年4月18日(東京)
「2018年度エネルギーマネジメント 戦略のポイントはここだ」
- ・2018年4月27日(名古屋)
「2018年5月28日(岡山)
「エネルギーリフォームで豊かな生活環境を実現」
「住宅用給湯器更新需要拡大から始まる蓄電池受注戦略」
「スマート HEMS 新商品特別説明会」

フォローアップ 研修実績



←エネルギーマネジメントアドバイザー認定センターホームページはこちら



2017年9月15日見学会&セミナー (東京開催)



2018年4月27日セミナー (名古屋開催)



2018年4月18日セミナー (東京開催)



舟山センター長

■2018年度エネルギーマネジメント 戦略のポイントはここだ！■

東京・神田で開催したフォロー研修はエネルギーマネジメントアドバイザー認定センター、舟山大器センター長による今年度のエネルギーマネジメント動向を見据えた2本立て。

「顧客に対してEMAは何の知識をもってアドバイスすべきなのか?」「その知識からどんな戦略を構築すべきなのか?」を前提に、まず、「①エネルギー基本計画から学ぶ戦略論」では、2016年度の国の「エネルギー基本計画」の見直しが今年行われることから、現在議論が交わされている案件が、今後の市場でどのように動いていくか推察していただきました。これから国で交わされていく議論がエネルギーの未来を予測する重要な材料になっていくことが理解できました。

次に「②ブロックチェーンや今後の技術の行方とエネマネ」では、ブロックチェーンの本質とは何なのかをわかりやすく説明していただくとともに、改ざん不可の記録であり、信頼性の高いデジタルデータが、保持され、共有されるという特長が、エネマネとどのように関りがあり、どのような可能性があるのかをレクチャーしていただきました。

RE100、ESG投資...、世界の潮流は環境に配慮しない企業はリスクがあると判断されるようになってきました。エネルギーの質が問われる時代に向けて、どのようにエネルギーマネジメントしていくのか、受講者の次なる好奇心を刺激したセミナーとなったようです。

東洋計測器株式会社 計測器ランド

秋葉原の計測器総合商社

〒101-0021 東京都千代田区外神田1-3-12 計測器ランドビル

電話: 03-3255-8038

http://www.keisokuki-land.co.jp

———下記製品はコチラでお求めいただけます! 「はかる」事ならワンストップサービスの計測器ランドへ———

Fit法改正

<< 太陽光発電の点検・調査に使用する計測機器・例 >>



バイパスダイオードテスタ
HIOKI FT4310

<昼でも測定可能>

I-Vカーブトレサ
HIOKI FT4300

<タブレットで簡単操作>



電源品質アナライザ
HIOKI PQ3100-92

<使用前点検時の
波形・高調波測定に>



クランプ式電流計
HIOKI CM4371

<タフ・高速・多機能クランプ>



絶縁抵抗計
HIOKI IR4055-11

<PVモード搭載・4秒測定>



マルチメータ
HIOKI DT4254

<世界最速・安全測定>



接地抵抗計
HIOKI FT6031-03

<防塵・防水・ワンタッチ>



検電器
HIOKI 3481

<光と音で安全検電>



サーモグラフィ
FLUKE TiS10



ラインチェッカ
戸上電機製作所 TLC-C



EL測定: 西進商事
Solar EL Explorer

校正とは

東洋テック株式会社

計測器の校正受託

計測のよりどころは計測機器です。計測機器がズレていれば、計測結果は正しくありません。計測機器は精密な電子製品。国家の標準に照し合せ、計測機器がズレていない事を監視する。それが校正です。東洋テック様におまかせください。「高品質」「短納期」「低価格」を実現します。

http://www.toyotech.co.jp

- 東京キャリアレーションセンター 〒101-0021 東京都千代田区外神田1-3-12 計測器ランドビル 電話: 03-3251-8676
- 浜松キャリアレーションセンター 〒435-0048 静岡県浜松市東区上西町60-3 電話: 053-465-5800
- 九州キャリアレーションセンター 〒812-0015 福岡県福岡市博多区山王1-6-18 電話: 092-409-5459

※これらの映像+資料は協会HPより視聴+ダウンロードが可能となっています(ご覧いただくにはパスワードが必要です)。